

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第58回会合 発言録

2025年1月6日

【加藤】 それでは、これからお集まりの方もいらっしゃるかもしれませんが、第58回目の活動活発化チーム会合を開始させていただきたいと思います。

皆さん、明けましておめでとうございます。どうか本年もよろしくお願いいたします。お正月は少しのんびりされたかもしれませんが、今日は年末にありましたIGFのリヤド会議の感想、意見交換等をいろいろと進めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、今、山崎さんから映していただいているアジェンダに沿って進めさせていただきたいと思います。先ほど飯田様のお名前を拝見しましたが、まず最初に日本政府からの御報告、御挨拶いただきたいと思います。

飯田様は御出席でいらっしゃいますでしょうか。

【飯田】 明けましておめでとうございます。飯田です。今年もよろしくお願いいたします。

【加藤】 よろしくお願ひいたします。

【飯田】 それでは、手短に、もう皆さん、現地にいらした方も多と思うので、我々の観点で御報告はさせていただきますが、適宜補っていただいたり、感想をいただければと思います。

リヤドのIGFは非常にサウジ政府の力の入れようがよく分かるような仕立てになっていまして、会場も非常に豪華に造ってあって、京都に比べると狭かったと思うので人がすごくいっぱいいるように見えて、公式には1万1,000人ということなので、オンラインの方がどれぐらいいるのかは実は調べていないんですけども、一方で、2日目以降ぐらいにはいろいろなところで市民社会の参加が少ないという話を結構耳にしまして、京都に比べるといろいろな理由で市民社会の参加が少なかったというところは否めないのかなという感想を持っています。

日本政府というか総務省としては総務審議官が現地に行きまして、ハイレベルセッションとメインセッションに1つずつ登壇して、インフラの関係とかマルチステークホルダー主義の強調ですとかIGFの重要性、今後、今年まさにGDCのフォローアップとWSIS+20における議論において、いかにIGFが重要であるかということを引き続き一緒にみんなで訴えていこうということを強調して帰ってきました。

あと、総務省としてはオープンフォーラムを2つ今回開催していまして、1つは去年に続いてAIの現状です。私どもとしてはIGFの名称がどうなるかはともかくとして、AIもそのリーチの中に含めるべきだと考えていますので、広い意味でのインターネットエコノミーの重要なインフラとしてのAIというのがここで議論されるべきだと考えていまして、その意味も込めてオープンフォーラムで今年も取り上げています。

あともう一つは、まさにWSIS+20に向けてどう協力していくかということで、産業界や市民社会、特にアフリカから参加してもらってスマートアフリカと、もう一人、誰だったかな。ユースですね。2人参加してもらって、ユースの人がザンビアかどこかの人だったんですけど、2人ともなかなか素晴らしいスピーカーで、特にユースの若い男性は、名前は忘れちゃったんですが、とても雄弁で、非常にいいスピーカーだったと思っています。去年の京都以降、ユースのコミュニティとも大分付き合いが

できるようになっていまして、今回、それぞれのセッションにユースからも参加してもらって、今後日本のユースとも連携していけたらいいなと思っているところです。

取り留めないですけども、サウジということでちょっと心配する向きもあったのですが、少なくとも表向きは非常にオープンで前向きな姿勢を示してくれたし、サウジの政府の人たちもすごく頑張ってくれていて、期間中にもいろいろまた今後も協力していきたいという話もありまして、今後サウジがグローバルな今年の議論の中でどういう位置づけになっていくかというのは、例えばG7とかライク・マインデッド・カントリーズの間でも一つトピックになっています。これを機会にサウジはかなり民主主義陣営寄りになるんじゃないかという期待もあり、もちろんポジショントークの部分もあるだろうということもありますけれども、そういう意味では今後の、今年の議論の中でサウジや、去年のネットムンディアル、G20のブラジル、あと何といってもインドといった辺りの新興国がどのようにスタンスを取ってくるかということについては非常に関心を持つというよりも、もっと積極的に働きかけをしていって、今年の議論を乗り切る仲間にしていこうというような議論をしてきたところです。

ですので、政府間ではそういう話をしていますし、当然去年のGDCのある意味反省ということも含めて、コミュニティ横断的にマルチステークホルダーで議論をちゃんとやっていくように国連側にも促し続けるということで、ちょうどお正月の休みの間には国連のほうでOSETが改組になってデジタルオフィスですか、デジタルエンボイのオフィスができたということで、もともと予算とかも議論されていたので分かっていたことではあるのですけれども、早速ヴィントン・サーフとアマンディープ・ギルとの間で今後について議論しようというような動きもあって、今後そこら辺で対立するというよりは、うまく全体が協力的になるような議論が1年間できて、未来志向の結果が出てくるというのが一番望ましいと思いますので、できるだけそういう方向に進むように日本政府としても働きかけをしていきたいと思っていますので、またぜひ産学官、市民社会みんなで、あとユースが協力していけるように、日本のコミュニティをまた強くしていけるようにできたらと思いますので、今年も引き続きよろしく願いいたします。

ちょっと簡単かもしれませんが、以上となります。

【加藤】 飯田様、ありがとうございました。

まず、今の飯田様のコメントに御質問等はございますか。

では、私から口火を切らせていただくと、飯田様、今年は6月にオスロでIGFの20回目の会議、7月にWSIS+20がジュネーブであるというスケジュールが決まっているわけで、いろいろなことが前倒しになっているのですが、今後の動きのような情報は何か入っておりますか、リヤド直後でまだ何も動きがないのでしょうか。

【飯田】 国連事務局側、あるいはニューヨークからも、今のところ具体的な動きないです。例のMAGのアルムナイメンバーもまだ決まっていない、結論が出ていないと聞いていますので、今後これが決まってきて6月に向けてロケットスタートするのかなと思うのですが、一方で、リヤドではノルウェー政府から、我々は来年がホストをするのだけでも、とにかく6月なので、アメリカ政府からは日本政府によく相談しろと言われたと、日本の京都の教訓というか、京都の成功をよく日本政府から教えてもらえと言われたのでということでノルウェーの人たちが来てくれましたので、今後どれくらいコミュニケーションを取れるか分からないのですけれども、それは我々としても京都の目的の一つでもありますので、しっかり今回のIGFを成功させて、今年後半の12月までの議論に貢献していけるように、

まず前半はこのノルウェーの6月に向けてどうやって連携したり準備を進めていったりしていくかということになってくると思います。具体的なスケジュールはないので、チャンゲタイ（IGF事務局）のところからいつもの蛇のくねくねというスケジュールが出てくるのを待っているのですが、恐らく半分ぐらいに凝縮されたものになると思うので、密度濃く対応していきたいと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。

皆さん、御質問はいかがでしょう。大丈夫ですか。もし後であれば、飯田様がおいでになれば、また追加で御質問させていただくなり、コメントいただければと思います。

飯田様、ありがとうございました。

【飯田】 ありがとうございます。

【加藤】 それでは、引き続きMAGからの報告ということで、今回、恐らく最後のミッションを務めていただいた河内さんから、12月の様子等、よろしくお願いいたします。

【河内】 河内です。今回、リヤドでのIGFに参加しまして、会期中にMAGの会議がありまして、私はいずれにしても3年目だったのでそれで終わりだったのですが、1年とか2年しかやっていないMAGのメンバーも、取りあえず去年までで一度MAGは終わりということで、全員に御苦労さまとありがとうございますという正式なレターが渡されました。

そのときに来年のMAGのメンバーについての話になって、先ほど飯田さんもちょっとおっしゃっていましたが、来年のメンバーは大体内々には事務局ではリストを作っているようなのですが、それが正式に国連事務総長からの承認がないと公表できないということで、それは多分2024年の年内には恐らく無理なので2025年の初めになると思うという事務局から報告がありました。ただでさえ今回はIGFが6月末ということでもっともより半分の期間しかないもので、早く言ってくれないとスケジュール的な問題とか予算の問題で困るので、なぜ言ってくれないのだと結構文句を言っている人、文句と言ったらおかしいですけども言っている人もいました。でも、結局、年末年始でハッピーニューイヤー的なeメールは飛び交っていますけれども、仲のいいMAG経験者の友達に、彼女は今年もMAGになるんじゃないかと私は予想している人で、その人に「何か連絡はあったか」と聞いてみたところ、「いや、まだ何もない」と言っていたので、恐らく公式にももちろんないですし、事務局は今日から動くので、まだ動いていないような感じでした。ですので、今週動くかどうかというところかなと思っています。そんなところです。

以上です。すみません。少ないですけども。

【加藤】 ありがとうございます。河内さん、本当に長い間、お疲れさまでございました。

皆さん、河内さんへの御質問等はございますか。特にはございませんか。

もしなければ.....。

【山崎】 すみません。山崎です。

【加藤】 山崎さん、よろしくお願いいたします。

【山崎】 別に特に質問があるわけではないのですが、河内さん、3年間お疲れさまでした。今後、特に今年は、もし日本からMAGメンバーが出ない場合は引き続きMAGの報告をお願いできたらいいな

と思っていますという願望をお伝えしたかったという、それだけです。

以上です。

【河内】 去年までのケース、今年が全くそれと同じになるかどうかは始まってみないと分からない、何とも言えないのですが、もし去年までと同じような形でMAGを運営していくとすると、MAGの会議、リモートも、それから物理的に集まる会議も基本オープンというか、例えば私が3年で終わっても、終わった人も幾らでも参加できるのです。いざ何か決める、どうしても決めないといけないときに決を採るときにはMAGのメンバーだけの投票数を数えることは1回か2回ぐらいありましたけれども、基本的に会議には参加できると思うんです。特にリモートは全く問題なく参加できるので、もし今後でも参加（通信途切れ）。

【山崎】 河内さんが固まったようです。

【加藤】 そうですね。

河内さん。

今、恐らくリモートは参加できるので、できれば参加いたしますというように答えられたのかもしれないですけども、固まっちゃいました。今、抜けて、また入るかな。

この間、山崎さん、その後、今度のノルウェーに向けて、オスロに向けて少しスケジュール的なことが出ているのかなと思ったのですが、もし分かればまた後で。

河内さん、先ほど、リモートは参加できるというところまで話があって、その後に切れてしまいましたので、続けていただけますか。

【河内】 すみません。パソコンの調子が悪くて、最近よく切れるのです。

参加できるようであれば、可能な範囲で報告させていただければと思いますということで、よろしくお願いします。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかに御質問等はございますか。

同じように飯田様の場合、前回のMAGということで継続のようなポジションというのはないのでしょうか。

【飯田】 いや、そこは結構曖昧なので、言えば拒否はしないのだろうと思うのです。ただ、あまり出しゃばったことをしてもなという思いもあって、今年はあまり言わなかったのですが、状況も状況なので相談してみようかなと思っています。聞く分には多分聞けると思うのですが、それ以上の関与ができるかどうか、あるいはするべきかどうかというのはちょっと考えたほうがいいかなと思っています。少なくとも、河内さんのお話のとおり、傍聴したりすることは引き続きできると思いますので、可能な限りは参加しておこうと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。スケジュールのこととか、一番最初にMAGで発表されたりすることが多いので、もしいろいろな情報を頂戴できればありがたいと思います。

あと、皆さん、いかがでしょうか。

それでは、スケジュールに沿ってNRIに関する報告ということで、今回はもうリヤドでセッションをやったので、その後は特にないかもしれませんが、山崎さん、河内さん、何かございますか。

【山崎】 山崎ですが、特にないです。先ほど出たとおり、今年は半分の時間しかないので、年が明けたらすぐNRIについて何か事務局から言ってくるかなと思ったんですけども、まだ来ていないです。今のところ、事務局からNRIのメーリングリストに来ているのはアンケートが2つだったと思います。IGF2024の振り返りと2025に向けた意見募集、それはNRIだけじゃなくて全ての人に対するものですが、もう一つはIGF2025のテーマに関する意見募集、その2つが送られてきただけで、NRI会合をいつやりますかという話はまだ聞こえてこないです。

【加藤】 河内さんから何かありますか。

【河内】 いえ、今山崎さんがおっしゃったようにNRIのメーリングリストにそれが来ているだけで、ほかに例えばMAGのメーリングリスト等にも特にまだ何も来ていないので、また動いていないかなという感じです。2025年のテーマに関する意見募集はもう始まっていると思いますけども。

【加藤】 先日NRIに届いたメールで、今山崎さんが言われたこととダブるかもしれませんが、IGF2025をインプルーブするためにアイデアがあればぜひフィードバックが欲しいというIGFのサイトの書き込みをお願いしますということと、それから2025年のテーマについてサジェスションがあればこれもお願いしますという、その2つのリクエストが来ていて、1月12日までにいろいろとコメントを受け付けていますという内容だったかなと思います。

山崎さん、そのことですよね、さっき言っていたいたのは。

【山崎】 そうです。

【加藤】 そうですね。これを貼り付けたほうがいいかな。これですね。これがその1つですね、テーマのインプットというのは。IGFのラインに来た2つ、これは山崎さんがその1つを出していただいたのですが、それを今チャットに貼り付けました。ということで、第1ステップは一応何か動いているということかなと思います。

あと御質問はいかがでしょうか。NRIに関しては、まだNRIとして何か会議をやったということもなければ、会議をやりますという案内もまだないということで、NRIとして個別の分科会のようなものもまだ決まっていないという理解でよろしいのですね。

山崎さん、まだそういうことですね。前は3つ、一応分科会的にやっていましたけれども。

【山崎】 はい、まだ.....。

【加藤】 それも見直しということですね、今回は。

【山崎】 だから、どうなるかも連絡がまだ来ていないので分からないということです。

【加藤】 そういうことですね。ただ、このテーマティック・オリエンテーションについてだけは何かサジェスションを欲しいという、全くないところから書くのか、WSIS+20をどうするかというその辺に集中しそうな気もしますが、どのように皆さん出すのかなというところかなという気はします。

ということで、NRI、MAGはそういう状況ですけども、それ以外、IGF以外も含めて何か情報共有していただくようなことはございますか。

今回、リヤドの中でもWSIS+20のレビューのフォーラム、WSISフォーラムですか、その途中のプレフォーラムのようなものもありましたけれども、スケジュールの案内があっただけで、いろいろなインプットを、たしか2月の何日かまでだったと思いますが、WSIS+20に対して意見を出してくださいというようなことがあったと思いますが、具体的な会議について何か提案があったということではないと思います。

【山崎】 あともう一つ、ITU理事会ワーキンググループは毎月いっぱいが期限で、そのワーキンググループというのはWSIS&SDGsというやつでしたけども、そこがWSIS+20に関する意見を募集しています。これは前回もお知らせしたかもしれませんが、後でURLを貼っておきます。

【加藤】 これはWSIS+20のフォーラムのための意見募集の一環ですよ。ITUとユネスコが中心になってやっていた活動の一環ですよ。

【山崎】 一応別立てですけど、関連しているでしょうね。

【加藤】 別立てという形なのですか。

【山崎】 たしか別だったと思いますが、関連するとは思いますが。

【加藤】 では、後でそのURLを貼り付けていただいて。

今年は結構忙しくいろいろコメント募集というのがあって、それをしないと乗り遅れてしまうというようなこともあるので、この辺の動きは注意していく必要があるかなと思っています。

これ以外に何か会議とか情報共有していただくことはございますか。

もし飯田さんのほうから、GDCのフォローアップのようなものって、何かその後あるのでしょうか、もうこのままなののでしょうか。それとも、先ほどGDCの流れでデジタルオフィスができたということですが、そういうことを淡々と実施していくという段階になったのでしょうか。

【飯田】 あまり透明ではないのですが、3月ぐらいにモダリティ、今後の進め方とか方法論という具体的なことを決めるということにたしかなっていますので、その前に何か議論して結論を出すようなプロセスがあるのだらうと思っています。そこで決まったモダリティに沿ってGDCのアウトカムを実施していく、そうなってくると淡々という面もあるとは思いますが、特にAIのところはまだまだかなりもめそうな感じはあるので、そこは3月のときにどういう中身のものをどのようにつくっていくのかということをもう一回具体的に決めていくことになるかと理解してまして、そのプロセスはまだ待っているところです。

【加藤】 ありがとうございます。そのAIのところは、何かオフィスというか、検討グループをつくるということと、各国からの専門家のグループをつくるというような記述がたしかGDCであったと思うのですが、その辺は進み始めているのでしょうか。

【飯田】 なので、4つあって、AIのオフィスを国連内につくるということと、研究者のパネルをつくるということと、マルチステークホルダーのディスカッションの場をつくるということと、あとはもともとファンドだったやつですね、イノバティブなファイナンシャル・ファンディング・スキームをつくるというようなものと4つありまして、そうになっている以上、何かするということだと思うんですが、具体的にどのようにしていくのかというところはまだこれから決まってくるところで、例えば研究者パネルをどのように、何名ぐらいで、どんな人で構成するかというのは内々に始まっている

ような状態です。ですので、我々としてもどういう人がふさわしいかとか、あるいはパネルそのものの機能ですね、これは政策提言するものではないという形にはしていますけど、どういう性格のものになっていくかということも関心を持ってフォローしていくことにしています。

【加藤】 それはたしかサイエンティフィックパネルと書いたあれですね。

【飯田】 そうです。

【加藤】 技術的な専門家のパネルですよ、考え方として。

【飯田】 もともとIPCCをモデルに政策提言するみたいな話だったのですが、大分押し戻して純粋にアカデミックな議論をするというようなことになっていると理解しているのですが、実際にやってみたらどうなるかというところもあるので、我々としては、加藤さんのお話のとおり、科学的な、アカデミックな研究をするパネルと位置づけて、そのように実行してもらおうと思って引き続き働きかけをしているところです。

【加藤】 そういう意味では、日本にいらっしゃる研究者にも内々に声がかかっているというような雰囲気なのでしょうか、今。

【飯田】 その辺は何とも申し上げられないのですが、今後の調整になってくるかなというところでは。

【加藤】 なるほど。そういうところに入っていただいて情報を取っていただくだけでも非常に重要なことだと思うので、また何か御披露いただけることがあれば、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

皆さん、ほかに動きとしていかがでしょうか。今出している国連の動きです。

それから、さっき山崎さんから貼り付けていただいたWSIS+20のレビュープロセスのインプットですが、結局7月のレビュープロセスに向けて、今そういうコメントを求めていると。ITUが中心的に動いているので、それについてコメントを出すということで、ITUの人は「何でも言ってくれ」というようなことをたしかりやドでは言っていました。ただ、それを言っても「何を聞いてくれるんだ」というようなやじも飛んでいました。

これは、山崎さん、今出しているのは何でしたか。GDCのコンパクトそのものですね。はい。

【山崎】 このタイムラインが重要かなと思ひまして。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 第一四半期にコンパクト……。

【加藤】 Implementation map。

【山崎】 マップとエンドースということのようなので。

【加藤】 それに合わせて先ほどのデジタルオフィスとか、GDCのAIに関する4つの決定の実施ということが進むということですね。

このスケジュールを見ると、WSISでIGFをどうしようかという前に、どんどんどんどん並行してこれ

が進んでいくという感じなのですね。

【山崎】 ここにはIGFのことは書かれていませんけれども、IGFのページにはたしかWSIS+20とIGF+20についてというページがあって、IGFの延長についても説明されていたと思います。

【加藤】 ええ。このMid 2025というのが、WSIS+20レビューというのが結局IGFをどうするかということが大きな話題だと思うので、それには含まれるのでしょうか。

【山崎】 そうですね。

【加藤】 はい。

皆さん、御質問とか御意見、さらに追加の情報、いかがでしょうか。

前村様、その後、ネットmundial含めて、何かいろいろな動きがあるとかそういうところはございますか。あとはICANNとか。今回のリヤドでもICANNはかなりたくさん来て、いろいろ発言も多かったような印象を受けたのですが、何かそういう意味でも別の会があるというようなことはないのでしょうか。

【前村】 端的に言うと、私は何にも興味を持ってちゃんとウォッチはしているつもりなのですが、特に何かあるわけではないです。ネットmundialに関しても、それ以降、リヤドでセッションをやったというのは聞いているのですが、それ以上のことはありません。

ICANNに関しては、今回、新しいCEO、Kurtis Lindqvistが初戦というのか、初見参というような感じだったので、あとはIGFでは定例になっているIDNの話というのは定例どおりやる、あとはマルチステークホルダーのセッションもやるというような感じだったのですが、それ以上のことはICANNから出てくるようには見えていません。

それで、ICANNとしてはGDCのプロセスに対してガバメンタルエンゲージメントのチームが彼らの見解を出しているというようなことは最近の動きとしてありましたが、それ以上のことはないように思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、もしほかになければ、せっかくの機会ですので、まだ記憶がさめやらぬうちに、2024の会議に参加された方から、自由にいろいろと感想を御披露いただければと思います。

先ほど飯田様からも公式のコメントをいただいたわけですが、印象でも何でも結構ですので、追加で飯田様からあれば、まず伺いたと思います。

【飯田】 そんなに今追加するほどのことはないのですが、もし皆さんから何か御質問とかあればと思います。取りあえず先ほどお話ししたとおりです。

【加藤】 分かりました。

今日御参加の方でICANNに参加されていたのは山崎さんと河内さん、あとは私ですか、ほかに御参加の方はいらっしゃいましたか。今、名前をざっと拝見していて、いらっしゃればぜひ何かコメントをいただければと思いますが、よろしければ、山崎さんから、お願いしていいですか。

【山崎】 そうしたら、私から簡単に。常に大体12セッションが同時に走っていますので、今回、JPNICからは私だけが参加でしたので、とてもじゃないですけど全セッションを見ることはできなくて、一部セッションを途中で移動してほかのセッションを見に行ったりはしましたが、やはり相当限度があるので、今日はNRI関連のセッションだけに絞って御報告しようと思います。

まず、Day0、最初の日曜日にNRIs Coordination Sessionというのがあって、NRIはWSIS+20に関して何ができるか、どのように貢献できるかというセッションがありました。ここではマルチステークホルダーによるインターネットガバナンスの強化、WSIS+20に向けた準備について主に議論されました。どんな点が議論されたかという、次に書いてある1番から6番まででして、キャパシティビルディング、それと協力、コーポレーションで、具体的な成果物を作成することが重要で、政府との連携として議員さんと呼んだり、教育のための資料を作成したりということが共有されました。

次は財政面です。資金調達ということで、インターネットソサエティーファンデーション、ISoc FoundationとIGF Support Associationからの支援が不可欠であるということ。

あとはIGFの未来ということで、ワーキンググループをつくったらどうかという提案がありました。

グローバルな協力ということについても議論されたと思います。

次は、時系列的に前後しますが、これはJPNICのほうで先月末に出しているもので、最終日の木曜日に飛びますが、NRIメインセッションということでNRIの役割の進化、これはマルチステークホルダーによるデジタルガバナンスに関するもので、これについて各地域での取組が紹介されて、課題と機会が指摘されたということです。さっきとかなり重なりますけれども、財政面、ステークホルダーの関与、地域特有の課題、成果の追跡、マルチリンガル、地域別の視点ということで能力開発、IGFとインターネットガバナンスの将来ということについて議論されたということだと思います。

あとは、3つあるNRIコラボラティブセッションのインクルージョンというやつがあって、私が毎月の準備期間で、毎月でもないか、担当というか、日本のIGFからは参加させていただいていたのですが、そのセッションです。全てのコミュニティ向けのマルチリンガル、多言語でのインクルージョン、包摂、それとユニバーサルアクセプタンス、これは日本語で書いたら分かりにくいかもしれませんが、ICANNでやっている多言語ドメイン名が使えるようにするための働きかけ活動が議題となって、その課題、進展、戦略について議論されました。その内容は、ざっと言うとユニバーサルアクセプタンス、UAと略することが多いですがその重要性、それを実施するに当たっての課題、地域別ごとの視点、多言語包摂の戦略、協力の重要性、未来への展望ということで、大ざっぱに言うとうことが議論されたと思います。

次は加藤さんが御担当だったと思いますけども、エマージングテクノロジーです。このセッションは私は直接聞いていないので、書き起こしをChatGPTで要約したのでちょっと間違いが入っている可能性はありますが、AI、ブロックチェーン、IoT、5Gなどの新たな技術の効果的なガバナンスの課題、戦略、協力の取組が議論されたということで、まず課題です。デジタルディバイドとか。

それと地域ごとの視点が紹介されて、ガバナンスの戦略として政策のフレームワーク、官民連携（パブリックプライベートパートナーシップ）と能力開発（キャパシティビルディング）、透明性と説明責任、国境を越えた協力、リージョナルIGFの役割、地政学的及び健康問題、行動を呼びかけると、こういう内容だったのではないかと思います。加藤さん、もし違っていましたら補足もしくは訂正

いただければと思います。

【加藤】 はい。

【山崎】 では、先に進みます。これは河内さんですかね。選挙における偽情報対策ですが、選挙期間中の偽情報が民主主義や人権に及ぼす影響、それへの対策、表現の自由を維持しながら対応する方法などが議論されたということです。

これも課題として地域の取組、次はプラットフォームと規制の役割ということで、具体的に社名が出ていたようです。あとはマルチステークホルダーによる協力、懸念と提言、考察といったことが話し合われたようです。

これも、河内さん、もし違っていましたら訂正もしくは補足いただければと思います。

これで5つ全部カバーしましたが、かなり駆け足だったかもしれません。補足もしくは御質問があればと思います。

【加藤】 山崎さん、ありがとうございます。

補足、御質問等はございますか。

もしなければ、もう一人御参加の河内さんから何か、感想を含めてありますか。

【河内】 私は、Day0のCFIECが主催したセッションについて御紹介したいと思います。日本IGFでも少しこのテーマでセッションを開催していろいろ意見交換していただきましたけれども、マルチステークホルダーというもののについて、とかくIGFでは、マルチステークホルダーでもとにかく全ての関係者が参加すると、一部の人たちだけではなくて全ての関係者が参加して議論すべきというところがまず重要と結構言われてきて、例えばグローバルサウスとか、途上国とか、市民社会とか、そういうところも全てが参加すべきというところは結構ずっと議論されてきたところですが、今やGDCも採択されて、IGFもこの先名前が変わってどういう形のものになるのかまだ明確には分らないですが、その先でマルチステークホルダーのプロセスとかモデルはどうあるべきなのかとか、デジタル関係だけではなくて、マルチステークホルダープロセスはほかの例えば環境問題とかそういうところが特に注目されて議論されていると思いますけれども、それがどのようにあるべきかについてDay0のセッションで、我々、CFIECのインターネットガバナンスの在り方に関する研究会というのを設置していました、その座長をお願いしている上村先生にモデレータをお願いして議論を行いました。これまでの経緯として、ICANNがあって、ICANNでは既にマルチステーク（通信途切れ）もう既に成果を出してきていたりとか、それから、環境問題とか.....。

大丈夫ですかね。またインターネットがちょっと不安定なので、固まっていませんか。

【加藤】 今のところは大丈夫です。

【河内】 大丈夫ですか。すみません。

議論されていますけれども、これからデジタル分野に関してどうあるべきかというところについて、特にテーマを絞って議論しました。スピーカーに1人、アブリ・ドリアという、このテーマに関して既にいろいろな研究をされているアメリカ人の方に入ってもらいまして、彼女がこのことについて、マルチステークホルダーモデルというのは、そのグループとかケースとか、それによってそれぞれ全部、全て違ったものになるべきというか、なるものであって、全てが同じ1つのモデルになるわけでは絶対

にない。なので、そのグループによってケースも違うし、ステークホルダーも違うし、どのように意思決定するかとか、そのやり方とかも変わってくる。マルチステークホルダーはこれまでも既にいろいろなところで議論はされているものの、まだまだこれからもっと研究を進めて、どういう場合、どういうグループではどういうケースが、どういうモデルが一番いいのかということをもっとみんなで議論していくべきはないかということでした。

また、彼女が懸念していたのは、一つはマルチステークホルダーといって、マルチステークホルダーディスガイズと上村先生もおっしゃっていましたが、単に参加してもらっていけばそれでいいという、偽のマルチステークホルダーと言うとおかしいですが、それはよくないので、それは気をつけなければいけないということと、もう一つはグッドフェイスでない場合、要するに、悪意を持っていると言うとちょっと言い過ぎかもしれないのですが、本当にそうあるべきだからマルチステークホルダーでやっていかなければいけないという、みんなの良心に基づいたものであるべきだということを彼女は言っていました。

すみません。ちゃんとまとまっていなくて、山崎さんのようにちゃんと資料もまとまっていなくて申し訳ないのですが、そういう内容のセッションを行いました。報告です。

【加藤】 ありがとうございます。

では、私からも幾つか今回のリヤドの感想を少し視点を変えて、もう少し個別のというよりは、皆さん御興味があるかもしれないですが、マクロ的なことに触れさせていただきます。

まず、御承知のとおり、IGFというのは今回が19回目だったんです。今度、今年6月にオスロで行われる会議が20回目ということで、今回で20年のIGFのマンデートが終了すると。その先どうなるかは7月に行われるWSIS+20で議論されて、最終的に国連総会で、延長するなら承認すると、そういう意味でIGFを今後どうするかということが非常に今議論になってきているタイミングだったわけです。したがって、WSIS+20に向けていろいろなセッションがあって、私はそのようなセッションを、IGFという議論の場がどうなっていくかということをかなり注目して、幾つか追ってみました。

まず、オープニングのときからいろいろな国々、サウジアラビアを含めて、EU、それからUKとかいろいろな国々の代表がIGFは継続すべきだと、非常にいい場だという肯定的なコメントを出したと。これはずっといろいろな会議で聞いていましたけれども、IGFはもうやめろと、20年たったらもう意味がないからやめろということを正面から言ったのは、私が聞いた限りではどこにもなかったように思います。ただ、いろいろ発言した人たちにはかなり温度差があるなということも非常に痛感しました。

特に今回明確になったことは、IGFをそもそもやって、先ほど河内さんからもマルチステークホルダーという議論がありましたけれども、IGFをマルチステークホルダーの参加の場としてみんなが意見を出し合うという構造は、実は20年前にジュネーブアジェンダ、WSISの中で決まったわけです。同時にそのときに議論の前提となっていたのが、ICANNを中心としたインターネットを我々が考える民間人主体の国際的な活動の中でつくり上げていくのか、それとも国連のような国際的な政府機関が決定すべきかと、こういう議論がずっとあって、それで一応ジュネーブアジェンダではそのことに結論が出て、当面は今のICANNの体制でいくと、同時にいろいろなインターネットの問題について議論する場としてIGFというものをつくる、フォーラムをつくる、ただしそれは議論の場だけであると、こういうことが決まったわけです。

それを受けて、最初の5年間にIGFをとにかくやってみようということでやったのが5年さらに延長されて、さらに10年延長されて今回、今年の20年に至ったわけです。じゃあ、今WSIS+20というのは何かというと、20年前にチュニジアで議論したWSISでいろいろなことをデジタルに関して、インターネットに関連して決めていくべきだということを行ったわけですが、それが今、本当に実施されたのか、今のままでいいのかと、これは見直しが今回あるという立てつけだと思います。

いろいろな会議に出て、いろいろな人と公式にも非公式にも意見交換したのですが、先ほど申し上げたようにIGFはいろいろな役割を果たしてきている、継続すべきだというのが今の勢だったと私は思います。これは参加された方やそうでない方も、いろいろ聞かれた方、もし間違っていれば教えていただきたいのですが、IGF自身は継続するのではないかと思います。最後のクロージングセッションで、今回、ヴィントサーフはリモートでしか参加しなかったのですが、リーダーシップパネルの代表として彼はリーダーシップパネルの意見を述べました。クロージングセッションの最初で彼が言ったのは、IGFは継続すべきだと。しかも、これは会議中にも何人かからそういうコメントがありましたが、今度は10年間の延長ではなくて恒久的に、パーマネントにIGFを継続すべきだという意見がありました。

しかも、今のIGFは事務局がまだまだ卑弱である、それから予算も十分ではないということで、リーダーシップパネルは、恒久的にし、かつ予算も拡大して、彼は具体的に3ミリオンの予算を毎年確保するんだということを言っていました。そういう意味で、これは決定ではなくて、まだ一つの考えなのかもしれませんが、IGFは今年6月のオスロ以降どういう形になるか、それはまだ分かりませんが、継続していくのだろうと、さらに活動としては強化されていくのかなというのが私の印象でした。

こういうことの背景として何が今起こっているかということ、先ほど、一方でGDCではいろいろな国連のニューヨーク組を中心に議論があるわけですが、他方ではIGFを継続したいという強い要望があると。その綱引きの裏には、実はあるセッションで、ある西側の政府の方という言い方をしておきますが、その方から、今回、IGFの見直しに関して、さらにGDCの検討について、いろいろな国のいろいろな意見の違いがあった、特にG77、G77じゃなくてG77、途上国がかなりの影響力を持っているG77は、明らかにICANNとかIGFを弱めたいと思っていると、彼はそういう言葉を直接使っていましたが、弱めたいと思っている人たちがいると。国連というような国際的な政府機関が権限を持っていろいろなことを決めていくことを考えている。これはどういうことかということ、単にインターネットのIPアドレスやドメイン名を決めているICANNの問題だけではなくて、例えばAIについても国連とかそういう場で途上国を含めた政府が決めていく体制をつくりたいという人が強くいると。そのある国の政府関係者は、そういう人は表には出てこないけれども、これは本当の話であって、新聞には出てこないけれども、こういう議論が常にあるんだということを露骨に公開のセッションで言っていました。記録に残っていますので、もし御興味があればその部分を示しますが、そういう意味で非常に裏ではいろいろな対立があると。これは、飯田様は非常に言葉を選ばれていろいろ御報告いただきますけれども、そういうことを多分いろいろところで実感されているのかなと推測いたします。

それで、そういうことを反映して、今回のサウジアラビアで特に感じたのは南北の格差、国連加盟国を含めて世界の3分の1はまだインターネットにつながっていないということを強調する話が非常に多かったわけですが、南北格差は単にインターネットの問題だけではなくて、AIが生まれてきたことでさらにそういう格差が生まれるということを指摘する意見が非常に多かったように思います。その裏には、民主国家と覇権国家といいますか、そういう綱引きがIGFという政治の場で行われているんだなということを強く感じました。この程度の表現にしておきますけれども、インターネットの問題と

というのは、今、国際政治の中で非常に重要な位置づけがあって、いろいろな国は、実はそういうことを考えてIGFの場をどうしていくかということを議論しているんだということを感じました。

以上のような背景から、この活発化チームの皆様ぜひ今後も御検討いただきたいと思うのは、これから今年6月にIGF、さらに7月にジュネーブでWSISのヒアリングの場がありますけれども、日本も今までIGFは非常に重要だと、こういうところがいいんだということを強調して意見発信していく必要があるなということを痛感しました。みんなが声を出してそれを形にしないと、いつまたこれは国連がやるんですと、政府がやるんですという方向に変わってしまうかも知れない、IGFという形がマルチステークホルダーでなくなってしまう、その可能性が十分あるんじゃないかと感じました。

その場合に、IGFは重要だという中で、特に私が感じたのは、今日ここにお集まりの皆様はそうだけれども、NRIというのがここにきていろいろな方が、これがあることが非常に重要なんだと、地域と密着して、確かにIGFという国際的な場で意思決定をするとかということがなくても、それをみんなが持ち帰って国の政府やいろいろな関係者と話をして制度化して、それがIGFという場とフィードバックを得ることによって国際的な制度のハーモナイゼーションというのができていくわけで、そういう大きな役割があるNRIというのをもっと強調すべきだと思います。そういう意味で、この活発化チームの日本での活動というのは非常に意味があるなと思いました。

NRIの活動というのはそういう意味でまさにマルチステークホルダーを原則としてやっているわけで、我々もこれを自分たちも活動しながら、最初に申し上げたように国際的にも情報発信していくということが非常に重要で、個別のセッションだけ見ているとなかなかこういう印象はないのですが、今回いろいろな方と直接的にもお話する機会があって、20年前、ICANNはどうなるのかということを考えながらIGFができたときと同じ議論が今でもずっと脈々とあって、20年前と今の違いは、20年前は今ほど途上国含めた世界中の人がインターネットを使っていなくて、まだ先進国が中心だった世界だったわけですが、今や世界中の人がインターネットを使い、AIの恩恵も受ければAIの被害にも遭うという時代になっているわけで、それをどう調整していくかということを議論していくことは非常に重要だなということを感じました。

すみません。長い時間お話ししましたが、私の今回一番感じた印象を申し上げさせていただきました。何か御質問とか御意見等があれば。

いかがでしょうか。これ以外にも細かいところがいっぱい、ああ、こうなんだと思うこともありましたが、幸いにも河内さんと私が泊まったホテルが事務局も泊まるホテルにたまたま当たって、いろいろな関係者が一緒のホテルで、朝晩の食事のところなどでいろいろな人に会えます。だから、立ち話を含めていろいろな裏話的なことを聞くことができたのが最大のメリットだったように思いました。ここにきて、今後6か月、7か月は非常に忙しい期間ですけれども、せっかくこの活発化会合でこういうことを情報交換させていただく皆様も、さらにここで日本からの情報発信を一緒にやらせていただければと思っています。

御質問とか追加の御意見はございますか。

すみません。何か私が演説調になったかもしれないので、申し訳ありません。もし後で御質問とかあれば、よろしくお願いします。

これでIGF2024に参加された方に御発言いただいたのですが、御質問がなければ、次に移らせていた

だいてよろしいでしょうか。

それでは、次のアジェンダとして、以前から御相談しているこの活発化会合の場で、勉強会と書いていただきましたが、何かテーマを決めて1時間ぐらいの時間を使って、最初に専門家の方から御発言いただいて、あとの後半は意見交換、質疑応答するというセッションをやったらどうかということで、前回、河内さんから具体的な提案もいただいたところです。

河内さん、その後の検討の進展とか御報告いただくことはありますか。できれば次回かその次あたりに実際に始めてみたいと思うのですが、いかがでしょうか。

【河内】 山中さんに……。すみません。山中さんとまでは、そこまで言っていなかったでしたか。

【加藤】 いや、言っていたいていると思います。

【河内】 言っていましたか。すみません。デジタル公共財についての話をしてもらったかどうかと思ひまして、JICAの山中さんに連絡してひまして、JICAさんではデジタル公共インフラの中のデータ交換基盤、DPGも含めてお話しすることは可能とひわれています。ただ、一応外部で講演するので中の手続とかはあるとおっしゃっていて、あと日程は御相談しないといけないのですが、もし可能であれば、この会議の次回か、もしくは、それがどうしても難しい場合はその次のこの活発化会合のときに合わせてはどうかなと思ひています。なので、次回の日程がある程度決まったら、もう一度山中さんに連絡してみようかなと思ひています。

【加藤】 ありがとうございます。

皆さん、いかがでしょうか。山中さんが候補ということで、御本人も御了解いただいているのですけれども、デジタル公共財というテーマで勉強させていただくということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

その場合の日程なのですが、ちょっと先に飛びますけれども、次回の開催候補は2月3日と山崎さんに書いていただいているのですが、私の個人的なことですひ、実はその日は海外出張を予定しておりまして、時差とかいろいろ考えると2月3日の夕方5時というのは極めて難しいので、勝手ですが、その前の週かその後の週に移動させていただけるとありがたいのですが、皆さん、いかがでしょうか。具体的には1月31日か2月10日、2月10日というのは連休の間に入ってしまうますが、皆さん、この日がいいのではないかとか、この辺は別の会議にも重なるからよくないとか、ございますか。

【河内】 1月31日ではなくて1月27日ですよね。

【加藤】 ごめんなさい。27日です。31日は金曜日ですね。失礼しました。1月27日か2月10日です。

【前村】 27日はちょっと……。

【加藤】 難しいですか、1月は。

【前村】 休暇をいただいている日なので、私は出てこられません。ほかの方の御都合だと思ひます。

【加藤】 2月10日は、11日が建国記念日で4連休にするという人がいるとまづいかもしれないのですが、その辺りで、10日か、場合によっては12日の水曜日がいいとか、その辺はいかがですか。な

ぜこうやって幾つかの日を挙げているかということ、もし次回、山中さんにお願いするとしたら、山中さんの御都合でこの中でどれがいいですかということを伺って、最終的に決めていただくといいかなと思うのですが、どうでしょうか。1月27日は前村さんが出席できないというのが分かりましたので、優先順位をそれを前提に考えていただくとして、いかがでしょうか。これは非常に都合が悪いとか、この日がいいということがございましたら。特にないでしょうか。

では、乱暴で恐縮ですがけれども、この3つ候補として、できるだけ2月10日か12日の辺りにして、山中さんの御都合を伺ってその日に決めて、メールで皆様に連絡させていただくということで、次回の日程と、今回は山中さんにお願いするということを決めていただければと思います。いかがでしょうか。

実績先生は12日で。実績先生は今日出席されているので、ぜひそのうち実績先生にも御登壇をお願いするかもしれませんので、予告編と勝手に申し上げますけれども、よろしくお願いします。

それでは、独断で恐縮ですがけれども、この3つ候補の中で、河内さん、引き続き調整をお願いできますか。

【河内】 分かりました。

【加藤】 基本的に時間は夕方5時か6時か、それも山中さんの御都合で決めていただければと思います。前に堀田さんからでしたか、5時ではなくて6時からそのセッションをやったほうがいいんじゃないかというような御意見もあったので、その辺も山中さんの御都合を確認していただいた上で決めていただければと思います。

【河内】 分かりました。

【加藤】 それでは、まずはこれでスタートして、引き続き河内さんに取りまとめをしていただくとして、こういう方にこういうことをしゃべってもらうといいのではないかという御提案をよろしくお願いします。

前村さん、ぜひ技術的な話もテーマとして取り上げていただくということで、候補を考えていただければと思います。よろしくお願いします。

【前村】 もちろんです。承知しました。

【加藤】 それでは、次です。前回の会合で今年の日本IGFをどうしようかという話があったのですが、これについて皆さん、何か御意見はございますか。できれば今日、1月のチーム会合で決めると、そうでないと6月のオスロの前に会合をするとなると、本当に我々も今から走らないといけないということなので、何か御意見はございますか。

もし今すぐに御意見がなければ、私から2つの点を申し上げたいと思います。1つは、APrIGFは今年どうするのだという話を聞きました。APrIGFの中心的人物にリヤドでその話をしたのですが、彼女とまで言っておきますが、たしか10月ぐらいだったですか、ネパールでやるということが決まっているのですが、10月だったか、クエスチョンマークと書いておいてください、ネパール開催は変えないと言っていました。別にオスロが6月であったから、もうそれで全てが終わりというわけではないという言い方をしておりました。

それが一つと、もう一つは、今回、先ほど申し上げたように、IGFは恐らく何らかの形で続くのでは

ないかという感触を私自身はかなり強く持ったので、別にオスロで終わりでないとしたら、オスロやその後のWSIS+20の話題も含めて、今年も10月とかの秋でもいいのかなという気がしました。そういう意味で、6月までに、例えば5月にぜひ日本IGFをやらないといけないというプレッシャーは大分なくなったのかなという気がいたしました。

何か皆さん、その後、考えていただいて、いかがでしょうか。

ロジをいつもやっていただいている山崎さんが特に発言力があるのではないかと思います、いかがですか、その辺の感触として。

【山崎】 担当者が自分の意見を言って、それを通してしまうと利害相反のような気がするのですが.....。

【加藤】 いや、そんなことはないです。

【山崎】 私はどちらかというと、自分がしんどくなるとはいえ、IGFより前にやってしまいたい派ではありますが、今の加藤さんのお話を聞いていると必ずしも同期しなくてもいいかもしれないので、そういう意味では、参加なさっている皆さんの御意見を伺って、それ次第で変えていいのではないかと思います。

【加藤】 例えば6月前にやるとすると5月後半から6月の頭になると思いますが、そこで場合によっては何をやるかですね。6月のオスロに向けて何か議論することを中心テーマの中心にするといいますが、かなりメインにするというやり方であればすごく意味があるかもしれないので、その辺はいかがでしょうか。誰か御意見のある方はいらっしゃいますか。

【山崎】 山崎です。特に御意見がないようであれば、私の今浮かんだ考えを申し上げると、これまで国内事前会合はてんこ盛りというか、何でもいろいろ詰め込んでパッケージにしてやってきますが、必ずしもそうでなくてはいけなわけではないし、例えば、5月なりは6月のIGFに向けてとか、WSIS+20だけについてライトウエートにやる、秋にもうちょっといろいろパッケージにしたものやるとか、2回に分けてもいいのではないかなという気はしました。だから、5月にてんこ盛りをやる必要は必ずしもないという気はいたしました。

【加藤】 ありがとうございます。私も、現実的にはそういうものは5月に、例えばこういうことをWSISに向けて言うていくべきだというようなことがかなり焦点となった会議があれば、それはそれですごく意味があると思います。また、9月、10月頃に6月、7月の動きを受けて、その報告も兼ねる意味があるかもしれませんが、もう一度日本IGFをやるとするのは、そちらはてんこ盛りでももちろん結構だと思いますし、意味があるのかなと思います。例えば5月に事前会合をやるのも、今回、山中さんにお願いしたと同じように、そのさらに拡張版みたいな形でもいいのかもしれないので、そういう意味では3日間のような形でなくて1日か、せいぜい1日半か2日ぐらいでもいいのかもしれないです。

山崎さん、そんなイメージでしょうか、事前のほうは。

【山崎】 はい、そんなイメージです。1日というか、半日とかで終わってもいいのではないかと。

【加藤】 半日で終わると、それを日本IGFと呼ぶという、その違いですね。

いかがでしょうか、皆さん。それは非常に現実的な、かつ意味のある進め方だと思いますが。

前村さん、いかがですか。一番いつも出ていただいているお一人ですけれども。

【前村】 てんこ盛りのものをしなくてもいいというのは、そういうのはそうかもしれないなと思いました。特段の意見はあまりなくて、確かに20年のマンドートを一旦節目にして6月にIGFをやるというタイミングなので、それをどう使うかというのはいろいろな考え方があるんだろうなと思うのです。そこでどうするのがいいのかというのは、それこそ私自身もいろいろなやり方があるだろうなと思うというぐらいのことで、これがいいはずだというような一つ固まったアイデアがあるというわけでもないということです。すみません、こんな曖昧なことで。

【加藤】 いえいえ、ありがとうございます。

堀田さん、出席されていて突然の御指名で恐縮ですけれども、何か御意見はありますか。

【堀田】 ありがとうございます。個人的にはというか、さっきの加藤さんのお話、レポートをお聞きしていても思ったのですが、6月のIGFがどうなったのという結果自体はウェブとかで出んですけど、そこに出た日本人がどう見たかという話は割に早く聞きたいのかな、クイックに。なので、これは前村さんが言ったように全てが、どれが正しいというのはないのですが、私の感覚だと、6月のIGFが終わった後にライトウエートに報告会みたいなことをオンラインだけでやって、それとは別に秋の恒例のといいますか、日本IGFをやるということでどうですかねと思いながら聞いていました。

【加藤】 ありがとうございます。

山崎さんが話をしたのと少しの違いは、ライトウエートを6月のオスロの前にやるか、後にやるかの違いで、ただどてんこ盛りのほうは秋にやるという点は、何となくそういう方向かなということですね。

【堀田】 はい。

【加藤】 ライトウエートのほうは、今日も皆さんからコメントをいただいて、それなりに時間をかけたのですが、もうちょっと時間をかけて半日でやるというぐらいの内容にはなと思います。そういうやり方でいくのか、事前に方針を決めるためにやるのか、その辺はいかがでしょうか。

堀田さん、6月の後というと、7月のWSIS+20が7月7日から11日くらいでやるのですが、その後ぐらいですか。

【堀田】 そうですね。

【加藤】 7月後半ぐらいですかね。

【堀田】 7月中旬とか。

【加藤】 ちょっと心配なのは、WSIS+20のオープンフォーラムがあっても、何かそこでみんなこういうことを言いつ放しだけで、去年の2024年もそうだったんですが、それがどう採用されて、次にどうなるのかが見えなかったのです。7月の会合がどうなるのかということも分からないので、基本的にはこういう会合でしたということと、6月にみんなとこんな議論をしていたということの報告会を7月後半ぐらいにやるという感じですか。

【堀田】 はい。

【加藤】 分かりました。

皆さん、ほかの方はいかがでしょうか。

折衷案的に考えると、山崎さんが言われた6月のオスロの前にライトウエートでやるというのは、オスロに向けていろいろな意見をまとめる的な面もあるのだとすると、多分この活発化会合の延長でメールのやり取りも含めてやれる部分があるかもしれないので、それはそういう形でやって、報告会のところは堀田さんが言われたような形で、半日なりで報告会的にやるという案もあり得るかもしれないですね。いずれにしてもどちらも重要なことだと思うんです、内容的には。ただ、時間としてどれぐらいかかるかという、別にそれほどすごい時間を日本IGFとして取り上げる必要はないかもしれないので、そういう立てつけもあるかなという気がします。

堀田さん、いかがですか。

【堀田】 よろしいかと思います。

【加藤】 いろいろな人に聞いていただくとしたら、報告の部分というのはすごく興味を持たれるだろうからということですね。

【堀田】 はい。

【加藤】 山崎さん、いかがですか。

【山崎】 意見が出てまとまるかというのはあるのですが、私としては折衷案でもいいので、何とか事前にやりたいですね。それが重いものである必要はなくて、加藤さんがおっしゃっていたように、メーリングリストで議論して、半日か、二、三時間でもいいですけど、それでやるのでもいいと思います。その後に報告会をやるのは全然問題ないし、秋にてんこ盛りバージョンでもいいでしょうし、だから、私としては事前に何かしらやっておきたいというのはあります。

【加藤】 ありがとうございます。

【山崎】 それがちゃんと議論がまとまって出せるようにするには事務方がちゃんとやらないとまとまらないし、議論のポイントが見えないと議論もしにくいでしょうしというのはあるので、ある意味自分で自分の首を絞めていますけれども、何かしらやっておきたいとは思っています。

【加藤】 山崎さんがオーケーなら、もうオーケーだと思います。

事前のまとめる会を、少なくとも、さっきも申し上げたように、日本もIGF継続に賛成ですというだけでもいいと思うんです。それをメッセージとして伝えるというのは、いらっしゃる方に持ってってもらうというのはすごく意味があるのかなという気が、今回は各国がオープニングのときからそれを言っていましたので、そういうことがあるとすごくいいのかなと。今川審議官もそれを最初のハイレベルセッションでも言っていただいて、日本もそういう立場であるということを書いていただいたのでよかったなと思います。みんながそれを声にするというのは、ああいう場ですから重要なという気がいたしました。

それでは、6月の前に必ず、この活発化会合の延長版かもしれませんが、まとめる会を行い、7月のWSIS+20の後に報告会を行い、その間に準備を始めていって、秋に通常フォーマットで、先ほどのAPrIGFのように秋にてんこ盛りでやるということによろしいでしょうか。

それでは、特に反対がないということで、その方向で進めさせていただければと思います。

あと、本チームの今後ですが、これも前村さん、その後、お正月であまりまだ進展がないということなのでしょうか。

【前村】 鋭意進捗に向けて努力はしておりますが、本日のところは共有することはありません。失礼します。

【加藤】 分かりました。いろいろ検討していただく方々は検討していただいているということで、特に御報告いただく進捗はないということで、今日は次に進ませていただきます。

ということで、先ほどの次回の打合せですけれども、1月27日、2月10日、2月12日のいずれかで次回を行う、これは山中さんの御予定に合わせると。恐らくこの連絡会としての活発化チームの会合は1時間をめどに、もう1時間のところで切るように私も司会をなるべく効率よく進めさせていただきますので、6時から勉強会を始めるという前提でスケジュールリングを山中さんと確認していただくということをお願いしたいと思います。それは決まり次第、なるべく早くに、御案内の前に、もう日程が決まったらそれだけ先にやると。18時から勉強会、17時からチーム会合ですね。もしチーム会合がどうしても必要なら勉強会の後にまた残ってやっていただくということになると思いますので、チーム会合は、堀田さん、こういう順番でよろしいんですよね、前に御提案いただいたのは。

【前村】 あまり気にしていません。

【加藤】 いや、前の御指摘はそのとおりだと思うのですが、勉強会のほうは仕事の関係で18時からのほうが聞いてもらう人が多いんじゃないかというお話がありましたので、普通は勉強会のほうがなるべく見える形で今後は御案内を出すというほうがいいのかと思いますので、それでこのように計画させていただければと思います。

ほかに今日積み残しの案件や、何か言い残したことなどはございますか。

飯田様もずっと残っていただいたと思いますが、もういらっしゃらないですか。

追加で何かコメントいただくことはありますか。

もしなければ、それでは、今日はこれでお開きにさせていただきたいと思います。今年もいろいろなことが起こる1年だと思います。どうぞ皆様、よろしくお願いしたいと思います。今日も長時間、大変ありがとうございました。

それでは、これで失礼します。ありがとうございました。